

資料3 福岡空港の位置付けについて

福岡空港の位置付けについて

1. 福岡県、福岡市における福岡空港の位置付け

(1) 福岡県

① 福岡県総合計画

- ・ 平成 24 年 3 月に、「福岡県総合計画」(5 年間)を策定。
- ・ 「県民幸福度日本一」を基本理念として、県民生活の「安定」「安全」「安心」を向上。
- ・ 時代の潮流や福岡県の強みを踏まえ、「アジアの活力を取り込み、アジアとともに発展」、「地域が特色を活かし、地域の経済を活性化させ元気になる」、「生活者の視点を大事にし、一人ひとりの幸福実感を向上させる」の 3 つの視点。

(福岡県の産業戦略)

- ・ 成長著しい自動車、先端半導体、ロボットなどの先端成長産業の更なる振興
- ・ 中小企業の新商品開発・販路拡大・海外展開の支援
- ・ 今後世界的に大幅な需要の伸びが見込まれる MR J を始めとする航空機産業等の企業誘致
- ・ 農林水産物の県外・国外への販路拡大のためのブランド化の推進
- ・ 観光産業の振興 (国の観光戦略：2020 年目標 2,000 万人、九州の観光戦略：2023 年目標 440 万人)

➤ 空港に関しては、

- ・ 「活力にあふれ成長力に富んだ経済と雇用の創出」の実現に向け、交通基盤の整備が進み、県内外へヒト・モノが活発に移動する拠点づくり及びアジアとともに発展を遂げることができるよう、アジアとのネットワークをより一層発展させることを目指す。
 - ・ 福岡空港においては、滑走路増設の早期着手・早期完成、その前提となる平行誘導路の二重化の早期完成とともに、国際線の路線数及び便数の充実拡大を図ることによりアジアの拠点空港化を目指す。
 - ・ 北九州空港については、国際貨物便誘致に不可欠な滑走路 3,000m への延伸の早期実現を図るとともに、アジア全体を取り込んだ貨物拠点空港化を目指しており、合わせて深夜早朝の旅客需要を取り込みながら、新たな路線誘致に取り組む。

② 「福岡県の空港の将来構想」(骨子案)

県内 2 空港のうち福岡空港は、国内外の多彩なネットワークを活用した国際展開により、九州、西日本、アジアの拠点空港として発展することを目指していく。また、北九州空港は九州唯一の 24 時間空港であり、企業・住民ニーズの高い路線展開、福岡空港で対応できない早朝・深夜便の誘致、貨物拠点空港として発展することを目指していく。

それぞれの空港の機能強化、役割分担、相互補完を通じて、今後とも増大し多様化する航空需要に幅広く応え、ゲートウェイとしての利便性を高めることによって、福岡県、九州全体の発展に寄与していく。

(骨子案より抜粋)

○福岡空港の目指す姿

国内外の多彩なネットワークを活用した国際展開により、九州、西日本、アジアの拠点空港として発展

- ・ 未就航のアジアの各都市、北米、オーストラリア路線などの戦略的な路線誘致
- ・ 限られた発着枠を未就航の国際路線等へ優先配分することを国に要請
- ・ 発着枠を超える就航希望航空会社（特にLCC）を北九州空港に誘導
- ・ 滑走路処理容量確保のため、平行誘導路二重化の早期完成及び滑走路増設事業の早期着手・完成
- ・ ヘリコプターの空港場外移設を目指す
- ・ 利用者の利便性向上を図る旅客ターミナルビルの再整備
- ・ 自動車専用道路による空港ターミナルへの交通アクセス強化を目指す

○北九州空港の目指す姿

企業・住民ニーズの高い路線展開、福岡空港で対応できない早朝・深夜便の誘致、貨物拠点空港として発展

- ・ 北九州地域の企業進出が多い中国、台湾、東南アジア諸国や自動車、航空機産業の拠点である中部地域（中部、小牧）を結ぶビジネス路線、住民ニーズの強い新千歳、那覇を結ぶ観光路線誘致
- ・ MRJの試験飛行、駐機の拠点化の実現と航空機産業の誘致
- ・ LCC、貨物専用便の誘致強化
- ・ 貨物拠点化に向けた貨物用大型エプロンの整備や滑走路の3,000mへの延伸を国に要請
- ・ 福岡都市圏とのアクセスの改善
- ・ 苅田北九州空港ICからの直通連絡ランプの整備を目指す
- ・ 需要動向・採算性を踏まえ小倉⇄空港間の軌道系アクセスを検討

(2) 福岡市

① 福岡市総合計画

- ・ 平成24年12月に、「福岡市基本計画」（10年間）を策定。
- ・ 基本戦略を（1）生活の質の向上と都市の成長の好循環を創り出す、（2）福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担うこととし、目指す都市像である「住みたい、行きたい、働きたい。アジアの交流拠点都市・福岡」の実現に向けて取り組む。

➤空港に関しては、

- ・ 「国際競争力を有し、アジアのモデル都市となっている」ことをめざす姿とし、「成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくり」を実施。
- ・ 成長著しいアジアに近接し、今後さらにモノ・ヒトの交流が活発になる博多港と福岡空港について、多様な航路の維持・拡大や、港湾・空港の能力や利便性の向上などの観点から、アジアの玄関口にふさわしい機能強化を図り、物流・人流のゲートウェイづくりを進める。

2. 福岡空港の位置付け

福岡空港は、都市型空港として、空港駅に鉄道が乗り入れているほか、広域との優れたアクセス（新幹線・高速道路）を有するなど、極めて高い利便性を誇り、福岡都市圏のみならず、九州・西日本地域の経済、文化、観光など様々な地域の発展、成長を牽引する拠点としての役割を果たしている。また、国が管理する拠点空港として、国内輸送、国際輸送両面から重要な役割を担っている。

オープンスカイ（航空自由化）の進展や、アジア／太平洋地域の航空需要の増大が見込まれる中、地域がアジアの活力を取り込み、更なる発展を遂げるためにも、以下のことを目指し、拠点性をさらに高めていく。

◆国内外の広範な地域との多様な交流を支える拠点空港

- ・ 充実した新幹線や高速道路網などを活かし、福岡のみならず、九州・西日本の各地域と国内外との経済、文化、観光など様々な交流を支える拠点空港を目指す。

◆九州、西日本、アジアの拠点空港

- ・ 福岡空港の広域とのアクセス利便性やアジアとの地理的利便性を活かし、国内外の多彩な航空ネットワークを活用した国際展開により、九州、西日本、アジアの拠点空港を目指す。
- ・ 福岡の、また、我が国に入国するための玄関口として、利用者の利便性・快適性の高い空港を目指す。

（北九州空港との役割分担、相互補完）

- ・ 福岡空港の発着枠は貴重であることから、24 時間利用可能な海上空港である北九州空港との役割分担、相互補完を通じて、今後とも増大し多様化する航空需要に幅広く応えていくことが必要。